

令和3年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第3回「高尾山で自然を体感」（テーマ：自然）

- 実施日時 令和3年9月25日（土）10時00分から12時00分まで
- 受講者数 4名（教員4名）
- 実施方法 Zoomを使用したオンライン開催
（配信場所：高尾599ミュージアム）

□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明

2. ゲストティーチャーからの講義

（ゲストティーチャー：森林インストラクター東京会

岡本俊彦氏、石井誠治氏、高橋まり子氏、内藤公雄氏）

【現地から生中継】

当日の高尾山の様子や実際の植生の紹介



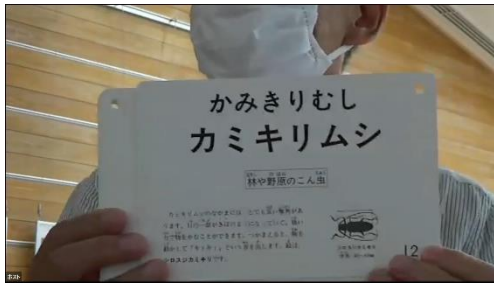
【プログラム紹介と体験】

(1) 「さわってみよう」プログラム紹介（動画）



(2) 「ネイチャーゲーム：わたしは誰でしょう？」プログラム紹介及び体験





(3) 「学校での樹木観察」紹介



3. 参加者同士でのグループワーク

(講師：NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

テーマ：子どもたちに自然の大切さを伝えるためにどのような授業を実施しているか、また、今後実施してみたいか

(授業実施や抱えている課題の例)

- ・ 道徳の授業で自然愛護として、江戸川のごみのDVDを活用して子どもたちに環境について考えさせた。理科の授業で「私たちと地球」をテーマにまとめさせた。一方で高尾山など現地に行けなくなり、環境学習が難しくなった。
- ・ 理科の授業で1年間を通しての樹木の観察を実施している。
- ・ 家庭科ではごみや暮らしの中で環境を大切にということでは出てくるので自分の身近なところから考えることを実施している。
- ・ 低学年でネイチャーゲームをやってみたいが自分が子どもたちに聞かれても答えられないことが心配。
- ・ 学校にビオトープがあり子どもたちがわいわいしていたら積極的に関わるようにしている。詳しい子に教えてもらったり、「〇〇博士」と呼んだりして一緒に楽しんでいる。



(実施例や課題に対する講師からのアドバイス)

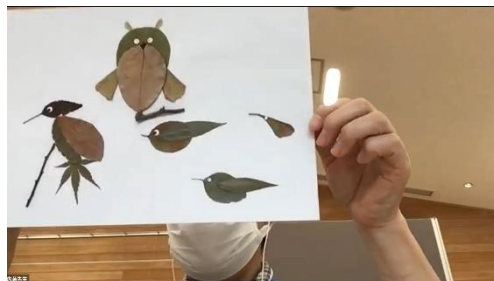
- ・里山があると四季を通じて様々なことが学べる。1年生から6年生まで系統立てて学習することができるので身近になくともそういったところについてみるのはどうか。
- ・先生方が詳しい必要は全くない。こどもたちの発見に先生が共感することが大切。一緒に調べることも大事だが、名前がわからなかったら勝手に名前をつけてしまうと良い。こどもたちは自分が名前をつけたものは覚える。名前をただ教えるだけだとすぐに忘れてしまう。それよりは特徴を見て名付けた方が良い。



- ・知らない方が良いこともある。自然の草花の話から話を広げることも大切。金木犀はよく話題に上るが、こどもたちは名前を知っていても実態は知らないことが多い。樹木がどんな葉でどんな花か、例えば今年は金木犀が非常に早く咲いたがこうしたことが身近な自然の変化を感じる入口になる。なぜ身近な自然でいつもと違う状況になったのかを考えていく視点をこどもたちと共有してほしい。



- ・身近な自然の活用として、葉っぱや種の違いを調べることで達成感を得られたり、違いを追及する力がついてくるかもしれない。また、葉っぱを使った工作を行うと自分で工夫をして好きなものを作ることができる。



- ・五感を使ったものとして、食べ物（例：柏餅）や文化なども入れてほしい。今の柏餅のほとんどは輸入の葉なので取り入れてもらえたらと思う。自然の恵みをいただいで暮らしや文化をずっと続けてきた国なので日本人がどういう暮らしをしてきたかを学ぶのも楽しい。食べ物も自然からいただいている。昔の日本人の食べ物などを今と昔を比べるととても楽しい学習になる。



4. 事務連絡

事務局からアンケートのご案内、解散